

先日は、9月のてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、10月12日(土)で、「樹木と鳥の持ちつ持たれつ」がテーマです。ぜひご参加ください。

* 市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、10月6日(日)の9:30からです。

9月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→ 博物館東側の通り→ 手賀沼遊歩道→ カツパ像前→ ミニ手賀沼
→ じゃぶじゃぶ池
- 観察日時と天気：2019年9月14日(土) 10:00～12:00 曇り
- 参加人数：20人(大人9人、子ども11人)
- 市民スタッフ：5人(弘實さと子*、石原直子、伊東茂子、木村稔、湯瀬一栄) *印は案内人
- 鳥博友の会ボランティア：3人(北村章子、伴野茂樹、古澤紀元)
- 鳥博職員：1人(岩本二郎)

観察した生き物の記録(下見を含む)

- 【鳥類】カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ/ミサゴ科：ミサゴ/カワセミ科：カワセミ*/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ*/ヒヨドリ科：ヒヨドリ*/ムクドリ科：ムクドリ*/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/(家禽および外来種)：コブハクチョウ、ドバト
- 【昆虫】トンボ目：アジイトトンボ*、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ*、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ノシメトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ/バッタ目：ヒナバッタ*、ヒロバネヒナバッタ*、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、ハネナガヒシバッタ*、ハネナガイナゴ、コバネイナゴ、クビキリギス*、ウスイロササキリ、ハラオカメコオロギ*、ツツレサセコオロギ、エンマコオロギ*、キンヒバリ*、クサヒバリ*、シバズ*、マダラスズ*、アオマツムシ*/カマキリ目：オオカマキリ*/カメムシ目：アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、アメンボ*、ヨコヅナサシガメ(幼虫)、アカスジキンカメムシ(幼虫)*/アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ(幼虫)/チョウ目：ナミアゲハ、キアゲハ*、クロアゲハ*、ナガサキアゲハ*、カラスアゲハ*、ジャコウアゲハ、キタキチョウ、モンシロチョウ*、モンキチョウ*、ヤマトシジミ、ルリシジミ*、ムラサキツバメ*、コムスジ*、セスジスズメ(幼虫)、カノコガ*/ハチ目：ツチバチの仲間*、コマルハナバチ*
- 【クモ類】タナグモ科：コクサグモ(幼体)/ヒメグモ科：シロカネイソウロウグモ*/アシナガグモ科：アシナガグモ/ジョロウグモ科：ジョロウグモ(幼体)/コガネグモ科：ドヨウオニグモ(幼体)、ナガコガネグモ*、ゴミグモ(幼体)*
- 【両生爬虫類】ニホンアマガエル、ウシガエル(幼生)、ヒガシニホントカゲ*、ニホンカナヘビ*
- 【植物(花)】ユリ科：ホトトギス/ツユクサ科：ツユクサ/カヤツリグサ科：ジョウロウスゲ、ホソミキンガヤツリ、カヤツリグサ、ヤマイ/イネ科：メヒシバ、オヒシバ、スズメノヒエ、チカラシバ、エノコログサ/ブドウ科：ヤブカラシ/アカバナ科：ユウゲショウ/マメ科：ヤマハギ、シロツメクサ/カタバミ科：カタバミ、オッタチカタバミ/ヒユ科：イヌビユ/スベリヒユ科：スベリヒユ/アカネ科：ヘクソカズラ/ヒルガオ科：ヒルガオ/アゼナ科：ウリクサ/サギゴケ科：トキワハゼ/クマツヅラ科：シチヘンゲ/キク科：ブタナ、ノゲシ、セイヨウタンポポ/スイカズラ科：ハナゾノツクバネウツギ
- 【植物(果実)】ツツラフジ科：アオツツラフジ/アブラナ科：マメグンバイナズナ/ナス科：ワルナスビ

(注) *印は9月8日の下見の時にのみ確認した種

9月の観察アルバム

今回のてがたんのテーマは「虫をねらう生きものたち」で、昆虫を餌にする生きものたちを探しました。また、多くの命を支える昆虫について、その種類が多い理由を理解するために、採集した昆虫の口の形を虫眼鏡で観察しました。そして、口の形が餌の種類に応じて、多様に進化してきたことを確認しました。数日前の台風と当日朝の雨の影響で、見られた生きものの種数は下見に比べ少なくなりました。



案内人：弘貴 さと子 さん



① ハクセキレイが鳴きながら飛来しました。尾が長く、地面をよく歩き回る鳥です。



② モズが木のとっぺんにとまって、さかんに鳴いていました。「高鳴き」と呼ばれる冬のなわばり確保のための鳴き声です。



③ ジャコウアゲハの成虫（メス）が、博物館の横に植えてあるウマノスズクサに飛来しました。



④ 博物館の東側の通りでは、ウスバカゲロウの幼虫（アリジゴク）を観察しました。大きなキバが特徴です。



歩いたルートと観察した生き物



⑤ ジャコウアゲハの幼虫は、生えはじめたばかりの、小さなウマノスズクサを食べていました。



⑥ ウスバカゲロウの幼虫は、通りがかった小動物が巣穴の中へ落ちたところを大きなキバでかみつきます。



⑦ 遊歩道の樹木に設置された樹木名札をめくると、たくさんのヨコヅナサシガメの幼虫がかくれています。

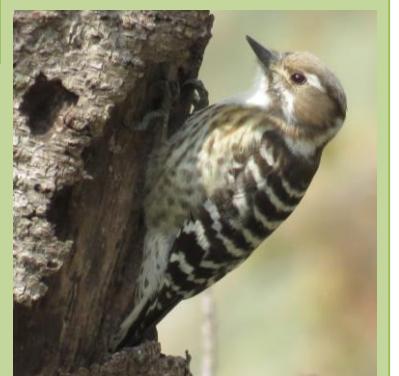


⑧ ニホンアマガエルが何匹も見つかりました。雨の日にはさかんに活動します。この日は雨上がりで地面がぬれていました。

今月の鳥 コゲラ

小枝や細い幹の樹皮を、嘴でたたいたり掘ったりしながら、主に昆虫やクモを食べます。舌を伸ばして木の枝や幹の中に入れ、隠れている生きものをからめ取ります。このため、冬に落葉したり地面に雪が積もった後でも餌をとり続けることができます。また、定住性が強く、ほとんど渡りを行いません。近年は森林だけでなく都市の公園などにも進出してきています。東京都では、1970年代までは西部でしか繁殖していませんでしたが、1983年から東部に定着しはじめ、現在では23区内でも見ることができます。手賀沼周辺では、1970年代終わりから1980年代初めにかけて記録されるようになりました。

キツツキ目キツツキ科



てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。